
デニッシュな日々（超短編）

4八ヶ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デニッシュユな日々（超短編）

【著者名】

NO860P

4ハゲ

【あらすじ】

デニッシュショで有名だったパン屋その密室がある日とだえてしまつ。決意小説

とある小さな町の小さな公園に彼はいた。まるで世の中から忘れ去られたような鎧びたベンチにちょこんとすわっている彼がいた。

彼は今彼の人生で初めての感覚に陥っていた。彼の仕事はパン屋でパンを焼くことであった。彼のパンは好評で、その店はいつもお客様であふれかえっていた。しかし、人というものは残酷なものでどんなにいいものをつくってだしてもやがてはあきてしまう。彼の店は前までの好評が嘘のようにぱつたりと零足が途絶えた。彼はその状況を打破しようと町で前はよくきてくれていた一人の女性を見つけ、なぜこなくなつたかをたずねた。そしてかえってきた答えは、「あの店のパンはほかの店のパンとくらべて個性的すぎる。あまりに個性的なものは最初のうちほちやほやされてもやがてあきてしまう。」ということだった。

彼は絶望した。自分の信じてきたものが否定されこの世の中から消し去られたのだ。彼は考えた。この世の中から忘れられたベンチのようになんも鎧びついていくのだろうと。彼は家に帰ることにした。そして次の日、またあの自分のような鎧びついたベンチのところにいったのだが先客がいた。次の日も、そして次の日も。彼は考えた、あのベンチは頑固者だ。世間から忘れられようとも、鎧びつこうとも自分を変えない。そしてそんなあいつにはしっかりとファンがいる。

彼は決心した。俺の「デニッシュ」はビリビリつぶつたつて硬くなる。でもそんなデニッシュが好きだと言つてくれた客もいた。たとえどんな状況に追い込まれようとも自分は変えない。彼は決めたのだ、柔らかいデニッシュしか好まれないこの世の中を硬いデニッシュで生き抜くことを。

(後書き)

最初なんでこんなもんで（汗

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0860p/>

デニッシュな日々（超短編）

2010年11月23日11時49分発行